

授業科目 緩和ケア看護学演習

【担当教員名】 渋谷優子 栗原弥生	対象学年	3	対象学科	看護学科
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：GIO>】
 緩和・ターミナルケアを必要とする対象を理解し、緩和・ターミナル期の経時的変化に適切な患者・家族の援助法を習得する。
 机上のモデル事例による看護問題を捉え、患者・家族の必要とする看護計画とトータルケアの検討および看護技術法を演習し習得する。

- 【<学習目標>又は<行動目標：SBO>】
1. 緩和ケア、ターミナルケアの考え方と看護学における役割を理解する。
 2. ターミナル期にある人の特徴と理解をし看護援助を習得する。
 3. ターミナル期にある人の症状緩和や緩和ケアにおける苦痛や苦悩を軽減しQOLを図る。
 4. ターミナル期のコミュニケーションを図り、ニーズ把握、自己決定、倫理的問題の擁護を支援する。
 5. グリーフワークの必要性を理解し家族・遺族に対するケア法を習得する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	緩和ケア、ターミナルケアの考え方と看護の役割	1	渋谷優子
2	ターミナル期にある対象の特徴と理解	2	渋谷優子
3	ターミナル期にある対象の看護援助	2	渋谷優子
4	ターミナル期にある対象の看護援助	2	渋谷優子
5	緩和ケアの症状緩和の薬剤使用の対処法	3	渋谷優子
6	ターミナル期における緩和ケアの実践法	3	渋谷優子
7	ターミナル期における緩和ケアの実践法	3	渋谷優子
8	ターミナル期における緩和ケアの実践法	3	渋谷優子
9	ターミナル期のコミュニケーション	4	渋谷優子
10	グリーフワークの家族・遺族ケア	5	渋谷優子
11	グループワークによる事例検討		栗原弥生
12	グループワークによる事例検討		栗原弥生
13	グループワークによる事例検討		栗原弥生
14	緩和・ターミナルケアに必要な看護技術演習		栗原弥生
15	緩和・ターミナルケアに必要な看護技術演習		栗原弥生
レポート課題：緩和ケア、ターミナルケアにおける死生観、看護観の看護援助への影響について、具体的事例より考察。			

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書	成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論	ヌーヴェルヒロカワ	系統看護学講座 別巻10 緩和ケア 医学書院	
	新体系看護学 35 生と死の看護論	メヂカルフレンド社	雑誌 緩和医療学 先端医社	
その他の資料	必要に応じて資料を配布する。			

【評価方法】 出席、レポート、定期試験で評価する。 出席 10% レポート 30% 定期試験 60%	【履修上の留意点】 参考書を活用し 参考書を活用し主体的に学習する。
--	--

看護学科 専門